

1994年7月25日

第3回「ブループラネット賞」の受賞者決定

学術賞：海洋地質学のサイボルト博士（ドイツ・キール大学名誉教授）

推進賞：レスター・ブラウン氏（米国・ワールドウォッチ研究所所長）

（財）旭硝子財団

財団法人旭硝子財団（理事長・山下秀明）が、地球サミットの年に最初の授賞発表を行なった「ブループラネット賞」は、今年で3回目を迎えます。この賞は、地球環境保全のさまざまな分野で貢献があり、成果を挙げた人または組織に毎年贈るもので、当財団顕彰委員会は、本年度の受賞者を以下のように決定しました。

1 受賞者

画期的研究業績に対して贈られる「ブループラネット学術賞」は、長年にわたって世界各地の海洋地質調査を行ない、地球の環境変化を予測する先駆的研究を蓄積してきたドイツのキール大学名誉教授・オイゲン・サイボルト博士（76歳）に決定しました。

地球環境問題で格別の貢献があった実践活動に対して贈られる「ブループラネット推進賞」は、米国のNGO、ワールドウォッチ研究所を創設して地球環境問題に関する啓蒙と提言活動を続けているレスター・ブラウン氏（60歳）に決定しました。

以上の2人には、賞状とトロフィー、および副賞として各5,000万円が贈られます。表彰式は、11月2日に行ないます。

2 受賞理由

学術賞のオイゲン・サイボルト博士は、1958年にキール大学地質学古生物学教室の主任教授に就任して以来、20年以上にわたって、各地の海洋地質学調査を行ない、今日の地球環境問題解明につながる研究成果を先駆的に積み重ねてきました。例えば

- ーバルト海・北海での細粒堆積物の堆積プロセスと運搬経路の解明（のちのヘドロや土砂の分散・沈積経過の予測に貢献）
- ーサンゴ等有孔虫の生態系の観測と炭酸塩堆積物の形成過程の解明（気候温暖化に影響する大気ー海洋間の二酸化炭素交換の研究）
- ー西アフリカ沖の第四紀堆積物の分析に基づくサハラ砂漠の環境変化の復元（北アフリカの

乾燥化を説明する重要な基礎データ)

—風成堆積物の垂直分布の調査に基づく後氷期の陸上環境変化と大気循環の関係の解明

など、地質学をベースに、地球物理学、地球化学、海洋生物学、土質工学など、学際的な総合研究の視点と方法を早くから取り入れてきた点は、高く評価できます。

博士はまた、長期にわたる調査の中で多数の研究者を育て、80年以降は国際地質科学連合、ドイツ研究協会、ヨーロッパ科学財団の会長・理事長として、この分野の研究の世界的推進にも大きな功績がありました。

推進賞のレスター・R・ブラウン氏は、米農務省在籍時代に1965年のインドの凶作を早期に察知し、米政府とインド政府に対策を進言し、被害を軽減させたのを始め、74年にワールドウォッチ研究所を創設してアフリカ飢饉の深刻化に対して警鐘を鳴らし、現在にいたるまで、人口爆発や食糧危機、生態系の崩壊などを精力的に訴える活動を展開して、地球環境保全に対する今日の関心と意識を世界的に育てました。

とくに1984年以来、毎年発行されている「地球白書」(State of the World)は、各年次における地球環境問題に関する全世界のデータが体系的に記載され、世界中の政治家や企業家、環境保護活動家にとって、最も影響力ある関連図書になっています。

92年版では農業革命、工業革命に続く第三の革命「環境革命」の必要性、化石燃料や原子力から自然エネルギーへの転換を説き、93年版では持続可能な経済のために産業界のできること、なすべきことを提言、最新の94年版では来たるべき人口問題と深く関連する食糧危機について警鐘を鳴らしています。現在、9月にカイロで10年ぶりに開催される「世界人口会議」に向けて活動中で、その疲れを知らぬダイナミックな実践行動は高く評価することができます。

●受賞者から次のようなメッセージをいただいております。

オイゲン・サイボルト博士 「今回のブループラネット賞が、地球科学とりわけ私の研究分野の海洋地質学に与えられましたことは、この上ない喜びです。私は、研究生活の当初から、海が私たちの地球環境の鍵をにぎるものと考えてきました。海があるのは地球だけです。水圏と岩圏すなわち海洋と大陸こそが、私たちの地球をブループラネットとして特徴づけています」

レスター・R・ブラウン氏 「ブループラネット賞の受賞に対し、驚きと喜びを感じます。賞は私に与えられましたが、むしろワールドウォッチ研究所のスタッフ、役員および長年にわたり私たちを支えてきて下さった諸財団に与えられたものと考えています。旭硝子財団がこの様な大きな賞を設けていることは、国際的な環境分野で、日本が優れた指導的役割を担っていることの証左だと思います」

■この件に関するお問い合わせ先：

(財) 旭硝子財団
担当・中村、長広

東京都千代田区丸の内1-4-2 東銀ビル
TEL: 03-3285-0591
FAX: 03-3285-0592

「学術賞」受賞者プロフィール

オイゲン・サイボルト博士（ドイツ）

Prof. Dr. Eugen Seibold

キール大学名誉教授

サイボルト博士は、自然科学の広範な分野に深い造詣をもつ地質学者である。人生の大半を海洋地質学の研究と発展にささげてきた。“海は人類がまだよくは知らない環境の一部であり、それに迫るには学際研究と国際協力が必要だ”というのが、博士の持論である。

最初の調査は、堆積や汚染にさらされているバルチック海、次に手がけたのがそれと対照的な乾燥地帯のペルシャ湾・アラビア湾だった。1965年の調査結果は、湾岸戦争時の重油流出による海洋汚染に対処するための基礎データとして役立てられた。次に調査対象として選んだのは、同じく乾燥気候である西アフリカ沖の大西洋で、その堆積プロセスやサハラ砂漠周辺の地質的变化を解明した。また1975年に掘削船グロマー・チャレンジャー号で行なった調査の結果、ジュラ紀に大西洋が出来てからヨーロッパ大陸縁辺部に起きた地質的变化の歴史が解明され、北米大陸縁辺部の環境の比較が可能となった。

第2次世界大戦後、サイボルト博士はドイツにおける海洋地質学のパイオニアとなった。キール大学地質学研究所を世界有数の研究機関に育てあげ、またドイツの海洋学を復興し発展させた。1980年にドイツで最も重要な基礎研究助成機関であるドイツ研究協会（DFG）の会長に、84年にはヨーロッパ科学財団の理事長に選ばれる。その間、海洋学や地質学の国家的プロジェクトおよび国際プロジェクトの推進に力を注いできた。また、国際海洋掘削プロジェクト、ドイツ深海大陸掘削プロジェクト、欧州ジオトラバース・プロジェクトを進め、さらに国際地質科学連合の会長として国際地質対比プログラムを手がけてきた。

現在、博士の育てた研究者たちが、博士のアイデアや研究思想を、極地研究などの新しい分野で発展させている。

略 歴

- | | |
|---------|----------------------|
| 1918年 | ドイツ・シュトゥットガルトに生まれる。 |
| 48年 | チュービンゲン大学で理学博士号取得 |
| 49年－51年 | チュービンゲン大学地質学教室・助教授 |
| 51年－54年 | カールスルーエ工科大学地質学教室・助教授 |
| 54年－58年 | チュービンゲン大学地質学教室・準教授 |
| 58年－79年 | キール大学地質学教室・主任教授 |
| 80年－85年 | ドイツ研究協会（DFG）会長 |
| 84年－90年 | ヨーロッパ科学財団理事長 |
| 86年－ | フライブルグ大学・名誉教授 |

主な学会活動

- 1964年－70年 地質学会・会長
- 67年 海洋研究科学委員会（SCOR）第19作業部会・委員長
（微古生物学シンポジウム、英国・ケンブリッジ）
- 70年 同第31作業部会・委員長（東大西洋大陸縁辺部の地質
シンポジウム、英国・ケンブリッジ）
- 74年 同第37作業部会・委員長（海洋プランクトンと堆積物シンポジ
ウム、西ドイツ・キール）
- 80年－84年 国際地質科学連合（IUGS）会長

「推進賞」受賞者プロフィール

レスター・R・ブラウン氏

Mr. Lester R. Brown

ワールドウォッチ研究所 所長

「世界で最も影響力ある思想家の1人」（ワシントン・ポスト紙）、「地球環境運動の導師」（カルカッタ通信）と言われるレスター・ブラウン氏の職業人生は、高校・大学時代に、ニュージャージー州南部でトマトなどを栽培する農民として始まった。55年にラトガーズ大学の農学部を出ると、インドの農村で半年暮らしたあと、59年に米国農務省海外農業部に農業アナリストとして入省、世界の食糧・人口問題を担当。

その身分のまま、メリーランド大学で農業経済の修士号、ハーバード大学でMPA (Master of Public Administration) の修士号を取得。そのほか今日までに北米や欧州の諸大学から合計16の名誉学位を授与されている。64年には農務長官オービル・フリーマンの対外農業政策アドバイザーとなる。66年には、農務省の国際農業開発部の部長に任命されたが、69年初頭に農務省を退職して、ジェームズ・グラント（現ユニセフ長官）を手伝って海外開発協議会を作った。

1974年、ロックフェラー財団の援助を得て、地球環境問題を分析する民間の非営利団体、ワールドウォッチ研究所を創設し、所長となる。この研究所は、ワシントンDCに本部を置き、広範な調査研究をもとに、出版物や講演などを通じて、地球環境保全をあらゆるレベルの人々に訴えてきた。今日では世界で最も徹底した地球環境分析を行なう団体の1つとして知られている。広範な実践家の声を反映した活動が特徴的。現在の所員は約30名で、米国の他、ヨーロッパ、インド、日本などにも組織がある。

創立してちょうど10年目に、ブラウン所長は、地球環境の現状を歪みなく報告するThe State of the World（邦訳名「地球白書」）を年刊として発行することを始めた。この科学的でかつ公正な地球環境の現状評価は、世界各国でたちまち高い評価を得て、世界の多数の言語に翻訳され、環境保護運動のバイブルとして、今では準公式の文書になった感さえある。

1988年、ブラウン氏は、研究所の調査研究を中心に発表する隔月刊誌World Watchを発刊し、出版物による啓蒙活動を一層強化する。91年には“地球警鐘ブックシリーズ”を発行、第

1冊目は、ブラウンが共著した「Saving the Planet: How to Shape an Environmentally Sustainable Global Economy」であった。翌92年には、地球白書とは別に新しい年刊書「Vital Signs: The Trends That Are Shaping Our Future」を出した。そして今年、食糧・人口問題に的を絞った共著「Full House: Reassessing the Earth's Population Carrying Capacity」が発行され、9月初旬にカイロで開かれる国連の世界人口会議へ向けて、精力的な活動を展開している。

主 な 受 賞 歴

1965年	アーサー・S・フレミング賞
81年	A. H. ボーマ賞（国連食糧農業機構）
82年	環境リーダーシップ賞（国連環境計画）
82年	Special Conservation Award（米国野生生物連盟）
85年	ローラックス賞（Global Tomorrow Coalition）
86年	マッカーサー・フェロー“genius”賞（John D. and Catherine I. MacArthur Foundation）
89年	World Wide Fund. for Nature金賞
89年	国連環境賞
90年	ビッツォツェロ賞（パルマ大学）
91年	ヒューマニスト・オブ・ザ・イヤー
91年	Pro Mundo Habitabili 賞（スウェーデン、カール・グスタフ16世）
92年	J C地球環境大賞特別功労賞（日本、東京青年会議所）

参考資料 2

「ブループラネット賞」とは

地球環境問題の解決に向けて、研究面や実践面で顕著な貢献をした人または組織の業績を称え、感謝の気持を表すとともに、多くの人がこの人類共通の課題に立ち向かう意欲と意識を高めることを目的として、1991年に旭硝子財団により創設された世界最大規模の国際地球環境賞です。賞は、画期的な研究業績に贈られる「学術賞」と、環境保全や環境意識の高揚などに貢献した実践活動に贈られる「推進賞」からなり、毎年、原則として各1件に対して、賞状とトロフィー、および副賞の5,000万円が贈呈されます。

各賞とも、毎年8月から10月にかけて、国内外の識者（ノミネーター）から候補者の推薦を受け、数回にわたる選考委員会の審議および海外アドバイザーからの意見をもとに、当財団の理事で構成する顕彰委員会に諮り、理事会で正式決定されます。

過去の受賞者：第1回 学術賞・真鍋淑郎（米国・海洋大気庁 上級管理職）
推進賞・国際環境開発研究所（I I E D、本部・英国）

第2回 学術賞・チャールズ・キーリング博士（米国・カリフォルニア大学
海洋研究所教授）
推進賞・国際自然保護連合（I U C N、本部・スイス）